

## 8、インドの印刷産業の現状と将来展望

ダイヤモンドグラフィック社 田中崇

### 総括

10億の人口で16公式言語を持ち、世界3位の英語による出版大国であるインドの印刷産業は、インド経済の拡大(03年度8.5%拡大)に伴って年率10%近い生産の拡大をしている。インドの先進的印刷会社は印刷プロセスのデジタル化を機会にIT先進国の力で急速に国際水準の印刷技術を持つようになった。CIP-3,CTP,ISO9000対応も進んでいて世界水準の印刷品質を保證できるようになった。外国からの受注も、欧、米、豪、中東アジアからの出版印刷、商業印刷物や情報処理の仕事の受注が増大している。

1) **インドの印刷産業の規模** 印刷会社数は14万社、印刷市場規模はヨーロッパの3分の2、従業員総数は約100万人

2) **マーケット** 出版印刷は、2002年のデリー国際ブックフェアには23ヶ国1605社の出展があり8日間で65万人の参加があった(多言語出版)。欧米の出版社の編集した本をインドで印刷製本して世界中に発送するものも多い。雑誌の出版も産業の発展、広告の増大にともなって種類も部数も増大している。商業印刷物、国内の商印は経済の発展と外国企業の進出で急増していて、欧米の商印もインドで印刷して世界中に発送している。パッケージ、特印特殊加工は消費物資の多様化、輸入商品の増大で宣伝、広告、パッケージが重要になり展示会「プリントパック」も盛大で、印刷やパッケージの専門大学もあり、シルクスクリーンの協会もある。外国からの受注は年間150億円の書籍、雑誌新聞を輸出し、その内10億円は欧米からの下請け印刷である。欧米の辞書や聖書などの印刷は中国と受注競争をしている。欧米からの情報処理や言語変換の受注も多い。

3) **印刷技術、品質、生産管理** ISO9000, CIP-3, JDFへの対応も進んでいて、GATF、PIRAへ加入しているところも多く印刷関係の先端情報も持ち1999年にはインドで「世界印刷会議」が開催された。

4) **設備、材料** プリプレスはアメリカの最新ソフトをすぐ採用し日本より国際化している。校正もDDCPが利用され、80%のところはCTPを採用している。製本加工もヨーロッパの機材を使って国際化している。用紙は年間400万トンが使われ、これからも年に5%増大する予想である(年間20万トンがヨーロッパから輸入されている)。

5) **印刷教育、労働力** イギリス時代から英才教育が盛んで、25の印刷関係大学があり、欧米の大学に留学する人も多く理論的には国際水準の印刷教育をしている。実技の教育は不足している。従業員の平均月給は2万円程で先進国は労働コストではインドに対して競争力はない。業界では、印刷機材展や印刷品質コンテストなどで、業界のイメージアップをはかっている。

### まとめ

インドはBRICsといわれ将来の世界経済の中心的経済大国の一つで、英語力、IT、低労働コストで世界の情報処理のセンターを目ざしている。また古くからの親日感情もあり日本との関係発展を強く望んでいる。